

Japanese man In NY (ニューヨーク生活)



The Dakota, New York

《ダコタハウス》

今回はニューヨーク生活でご近所だった「ダコタハウス」の話。ダコタハウスは、マンハッタンのアッパー・ウエスト・サイド、東西に走る72～73丁目と南北に走るセントラル・パーク・ウエストに挟まれた角地に佇む高級集合住宅だ。英語では「The Dakota」「Dakota Apartments」と呼ばれており、セントラル・パーク・ウエストを挟んだ先には広大なセントラル・パークが広がっている。

ダコタハウスで一番よく知られるのは、11月2日に最後の新曲「ナウ・アンド・ゼン」が世界同時配信リリースされたばかりのザ・ビートルズのジョン・レノンが住んでいた場所で、今から43年前の1980年12月8日、そのジョン・レノンがファンでもあったマーク・チャップマンに射殺

された場所であること。ダコタハウスには、今でもジョン・レノン夫人のオノ・ヨーコとジョンとヨーコの息子ショーン・レノンが暮らしているはずだが、これまでにレナード・バーンスタイン、ロバータ・フラック、ジュディ・ガーランドといった著名人たちも暮らしていた。

また、ダコタハウスには資産や収入が多いだけでは入居できないそうで、役員会による入居審査基準はニューヨークで最も厳しく、過去にビリー・ジョエルやマドンナ、カーリー・サイモン、アレックス・ロドリゲス等が入居を拒否されたそう。ニューヨークで生活していた当時、歩いて10分程、6ブロック程離れた監獄のようなアパートの部屋で暮らしていたが、「将来ここに住みたい！」と夢を抱きつつ、散歩がてらセントラル・パークを訪れる際には頻りにダコタハウスの前を通っていた。

ダコタハウスの前を通る時はいつも、大好きなビートルズ、そして、ジョン・レノンのことを思いつつ、同時にオノ・ヨーコかショーン・レノンと遭遇しないかな...とミューバーな気持ちも抱いていた。ダコタハウス前の様子は、Amazon Prime等で配信中の映画で、ジョン・レノンの殺害犯マーク・チャップマンが凶行に及ぶまでの3日間を描いた「チャプター27」を見るとよく分かるのだが、今でもビートルズやジョンのファンが訪れる聖地のような場所になっている。

ダコタハウス前の通りを渡ってセントラル・パークに入ると、ジョン・レノンに捧げられたストロベリー・フィールズが広がり、その一角にジョンの名曲「イマジジン」の円形のモザイクもある。毎年12月8日のジョンの命日になると、世界中からファンが集まり、たくさんの花がたむけられ、ビートルズやジョンの曲を合唱するシーンが見られる。

自分にとって、セントラル・パークは庭みたいな場所だったが、一度だけセントラル・パークで白人老紳士と歩くオノ・ヨーコとすれ違い、本誌Vol.3の巻頭特集「ジョン・レノン・スーパー・ライヴ2005」でオノ・ヨーコ記者会見に出席させて頂き、本誌Vol.16の巻頭インタビューではショーン・レノンとの単独インタビューが実現したのだが、未だダコタハウスに住む夢は実現していない...。どんなに頑張っても素性が怪しくて入居を拒否されそうだが、夢は持ち続けたい。

Hawaii Walker's (ハワイの歩き方)

Rock Island Cafe

ロック・アイランド・カフェ

今回はオアフ島ワイキキ西側のカラカウアアベニュー沿いに佇む古き良きアメリカを味わえるカフェ「ロック・アイランド・カフェ」。元々ワイキキの中心部に位置するキングスビレッジにあったが、キングスビレッジの再開発に際して、2019年3月に現在の場所に移転した。1950's~1970'sのアメリカンポップカルチャーをテーマにしたお店で、エルヴィス・プレスリーやマリリン・モンローの像もあり、グッズも販売しており、カフェのメニューも豊富で充実。店内には陽気でポップでアメリカンな雰囲気が広がっている。

HP: <https://www.rockislandcafe.com/home>

《ハワイな一枚》



Christmas Time

Eddie Kamae & Sons Of Hawaii

Hawaii Sons Records : 1014 [Import CD]

エディ・カマエ&サンズ・オブ・ハワイによって演奏された「アイ・ラヴ・クリスマス」「クリスマス・ロング・アゴー」等、極上のクリスマス・ソング12曲を収録。